# CASIO

# アナログ(X2)

## 364

## 使用説明書

**カシオ計算機株式会社**

このたびは、当社製品をお買いあげくださいましてありがとうございました。末永くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。

なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

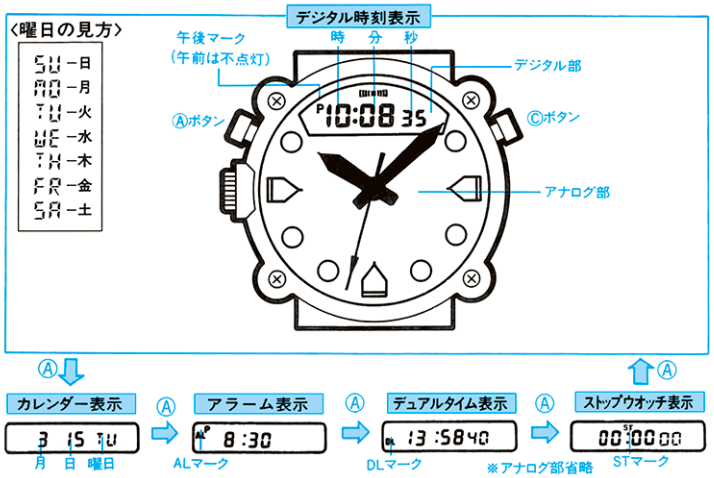
時計のお取扱いで、万一、誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

## 操作のしくみと表示の見方

Ⓐボタンを押すごとに以下の順でデジタル部の表示が切替わります。(押すごとに確認音が鳴ります。)




※詳しくは各機能の項目をご覧ください。



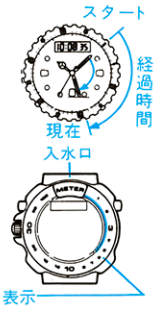

●回転ベゼルのついているものは回転ベゼルを回し、▼マークを分針に合わせると、その時間をスタートとして、経過時間を知ることができます。

●リューズがネジ込み式になっている機種は、時刻合わせの際は左回しにしてネジ込みをゆるめた後、リューズを引いてください。なお、リューズをゆるめた状態では防水性を保てませんので、合わせ終わったら必ずネジ込みをしてください。

●水深計つきの機種は、水に潜った時に、ベゼル部のチューブ内に入った水の先端の数字が水深(m)を示します。
スキンダイビングでの水深測定の目安としてご使用ください。

※水深計には精度誤差がありますので、あらかじめご了承ください。
(0m～10m未満……±2m、10m～100m……±20%)

※チューブ内に水が残っている場合には更に誤差が出ますので、振ったり温めて水を抜いてからご使用ください。
(温める場合、60℃以上の高温はお避けください。)




## 製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
デジタル部表示方式：FE型液晶デジタル表示
基本機能：アナログ部……時・分・秒(3針)
デジタル部……時刻表示＝時・分・秒・午前／午後
カレンダー表示＝月・日・曜日(オートカレンダー)
アラーム機能：時刻アラーム　セット単位＝分　電子ブザー＝約20秒間　時報　毎正時を報時
デュアルタイム機能：表示内容＝時・分・秒
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
計測範囲＝59分59秒9(60分計)
計測機能＝通常計測、積算計測
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え機能
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　C/MOS-LSI
駆動方式：アナログ部＝ステップモーター式(1秒運針)
デジタル部＝マルチプレックス駆動
常温携帯精度：月差±15秒以内
使用電池：SR-920W(電池別途販売)
※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。
電池寿命：約2年
(1日当たりアラームを20秒間使用した場合)

## ご使用上の注意

■防水性　●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。
・20気圧(200M相当、表または裏に20BARまたは200Mと表示)および30気圧(300M相当、表または裏に30BARまたは300Mと表示)防水の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビング・スキューバダイビング(アクアラング)などで使用できます。
・10気圧防水(100M相当)〈表または裏に10BARまたは100Mと表示〉の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビングなどにお使いいただけますが、専門的な潜水＝スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。
・5気圧防水(50M相当)〈表または裏に5 BARまたは50Mと表示〉の場合。水仕事、水泳などでご使用になる水準です。スキンダイビング、高とび込み、ウインドサーフィンなどでのご使用はお避けください。
・BARまたはMの表示のないもの。洗顔や雨などの日常の使用に耐える構造になっていますが、水泳・入浴・洗車時などでのご使用はお避けください。
●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的(2～3年を目安に)なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査をおこないますので、必ずお買上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。(特殊な治具を必要とします)
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水がかかるご使用はお避けください。
■バンド　バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
■お手入れ　ケースやバンドの汚れ、汗、水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふき取り、常に清潔にしてご使用ください。金属バンドについては時々、柔らかい歯ブラシなどによって、石けん水でスキ間にたまった汚れを部分洗いすることをおすすめします。
●汚れたままですとサビたり、衣類の袖口を汚したり、皮ふの弱い方はかぶれたりする場合があります。
■温度　直射日光が長くあたったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ・進みが生じたり、止まったり、電池寿命が短くなることがあります。
■ショック　通常の使用状態でのショックや軽い運動(キャッチボール、テニスなど)には十分耐えますが落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。
■磁気　家庭用電気製品(テレビなど)程度の磁気には影響ないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ・進みが生じることがあります。
■薬品類　水銀や化学薬品(シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類)が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずる場合がありますのでご注意ください。
■保管　長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふき取り、高温、多湿の場所をさけて保管してください。
※万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

## 電池交換について

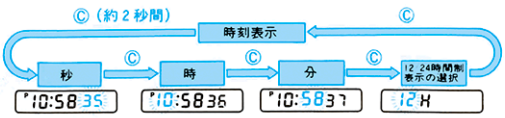
■最初の電池　工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。
■消耗　電池が消耗しますと時刻の狂いが目立ったり、止まったりします。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。
■電池交換　電池交換はお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

## 液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。その時はお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

## デジタル時刻のセットのしかた

デジタル時刻表示のとき©ボタンを約２秒間押し続けると「秒」が点滅します。
以後©ボタンを押すごとに以下の順で点滅個所が移動します。




### ●秒の合わせ方……30秒以内の遅れ進みの修正

月に一度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと時計はいつも正確です。

(1)時刻表示のとき©ボタンを約２秒間押し続けると〝秒〟が点滅します。




※アナログ部省略

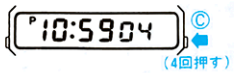
(2)時報に合わせてⒶボタンを押すと〝秒〟が00からスタートします。

〝秒〟が00～29のときは切捨てられ、30～59のときは１分くりあがって00秒からスタートします。



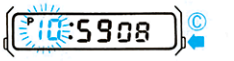

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)©ボタンを４回押すと点滅は止まり、時刻表示に戻ります。




### ●時・分のセット

(1)©ボタンを押して「時」を点滅させます。
（上図参照）




(2)Ⓐボタンを押すごとに「時」が１つずつ進みますので、合わせたい「時」にします。
※押し続けると早送りができます。




(3)「時」を合わせたあと©ボタンを押して「分」を点滅させます。「時」と同様にⒶボタンを押すごとに「分」が１つずつ進みますので、合わせたい「分」にします。
※押し続けると早送りができます。




(4)「分」を合わせたあと©ボタンを押すと12時間制表示または24時間制表示を示す〝12H〟または〝24H〟が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに〝12H〟と〝24H〟が切替わりますので、お好みの表示を選択します。
※〝12H〟を選択したとき、午後のみPマークが点灯します。




(5)表示を選択したあと©ボタンを押すと点滅は止まり、時刻表示に戻ります。




（午前8時25分45秒）

## アナログ時刻のセットのしかた

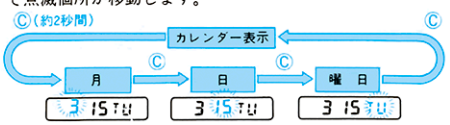
(1)リューズを引くと秒針が止まりますので、リューズを回して時刻を合わせます。
右回り、左回りのどちらに回しても大丈夫ですから、どちらか近い方を選んで合わせると早くセットできます。

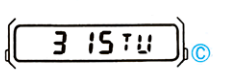
(2)デジタル時刻表示の「秒」が秒針の止まっている位置と同じになったときリューズを押し込みます。
※この場合、秒針が±１秒以内の遅れ進みが生じる場合もありますが、精度(月差±15秒以内)には影響ありません。




## カレンダーの合わせ方…操作のしくみにしたがいⒶボタンを押してカレンダー表示にします。

カレンダー表示のとき©ボタンを約２秒間押し続けると「月」が点滅します。以後©ボタンを押すごとに以下の順で点滅個所が移動します。




（3月15日火曜日）

※アナログ部省略

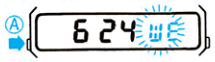
(1)©ボタンを押して（約２秒間）「月」を点滅させます。このときⒶボタンを押すごとに「月」が１つずつ進みますので、合わせたい「月」にします。
※押し続けると早送りができます。




(2)「月」を合わせたあと©ボタンを押して「日」を点滅させます。Ⓐボタンを押すごとに「日」が１つずつ進みますので、合わせたい「日」にします。
※押し続けると早送りができます。




(3)「日」を合わせたあと©ボタンを押して「曜日」を点滅させます。Ⓐボタンを押すごとに「曜日」が１つずつ進みますので、合わせたい「曜日」にします。
※押し続けると早送りができます。



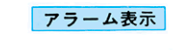

(4)「曜日」のセットが終わったら©ボタンを押すと点滅は止まり、カレンダー表示に戻ります。



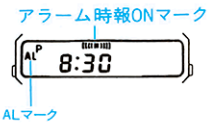

（６月24日金曜日）

## アラームの使い方……操作のしくみにしたがいⒶボタンを押してアラーム表示にします。

**確認** ⇨ **AL**マークの点灯




アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると20秒間電子ブザーで知らせます。
また毎正時(00分のとき)を〝ピッピッ〟と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。
※いずれもデジタル時刻表示にしたがい機能します。
※時刻表示を24時間制表示にしているときはアラーム時刻も24時間制で表示されます。

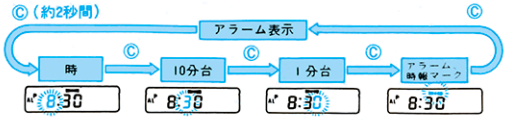



（午後8時30分にセット中）

※アナログ部省略

### ●セットのしかた

(1)アラーム表示のとき©ボタンを約２秒間押し続けると「時」が点滅します。以後©ボタンを押すごとに以下の順で点滅個所が移動します。




(2)「時」のセット
©ボタンを押して「時」を点滅させます。このときⒶボタンを押すごとに「時」が１つずつ進みますので、合わせたい「時」にします。
※押し続けると早送りができます。
※12時間制表示の午後のみPマークが点灯します。

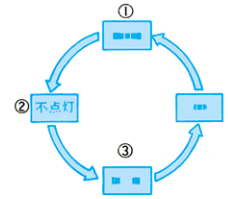



(3)「10分台」「１分台」のセット
同様の操作で、©ボタンで「10分台」、「１分台」を点滅させ、Ⓐボタンで表示をセットします。




(4)「アラーム、時報のON/OFF」
アラーム時刻(時・分)をセットしたあと、©ボタンを押すとアラームマーク(▬)時報マーク(▪)が点滅します。このときⒶボタンを押すごとにアラームマーク、時報マークが以下の順で点灯、不点灯をくりかえします。マークが点灯しているときがONの状態です。

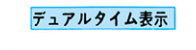


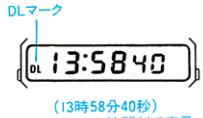

①アラームマーク、時報マークが点滅しているとき
⟶アラーム、時報ともON
②アラームマーク、時報マークが消えているとき
⟶アラーム、時報ともOFF
③アラームマークのみ点灯しているとき
⟶アラームのみON
④時報マークのみ点灯しているとき
⟶時報のみON

## デュアルタイムの使い方……操作のしくみにしたがいⒶボタンを押してデュアルタイム表示にします。

**確認** ⇨ **DL**マークの点灯




デュアルタイムはデジタル時刻とは別に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。(秒はデジタル時刻と連動)
デジタル時刻とは別に12/24時間制を選択できますので、デジタル時刻を12時間制表示、デュアルタイムを24時間制表示にセットすることもできます。
またアナログ時刻、デジタル時刻、デュアルタイムをそれぞれ別々の時刻にセットすれば３つの地域の時刻を表示することもできます。



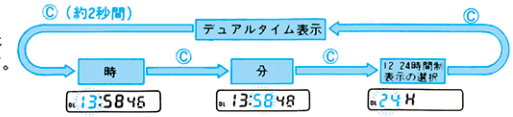

（13時58分40秒）

※24時間制で表示

※アナログ部省略

### ●セットのしかた

(1)デュアルタイム表示のとき©ボタンを約２秒間押し続けると「時」が点滅します。以後©ボタンを押すごとに右の順で点滅個所が移動します。




(2)©ボタンを押して「時」を点滅させます。このときⒶボタンを押すごとに「時」が１つずつ進みますので、合わせたい「時」にします。
※押し続けると早送りができます。
※12時間制表示の午後のみPマークが点灯します。



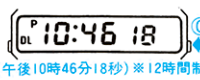

(3)同様の操作で©ボタンで「分」を点滅させ、Ⓐボタンで表示をセットします。




(4)「分」を合わせたあと©ボタンを押すと12時間制表示または24時間制表示を示す〝12H〟または〝24H〟が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに〝12H〟と〝24H〟が切替わりますので、お好みの表示を選択します。



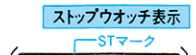

(5)表示を選択したあと©ボタンを押すと点滅は止まり、デュアルタイム表示に戻ります。




（午後10時46分18秒）※12時間制表示

## ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがいⒶボタンを押してストップウオッチ表示にします。

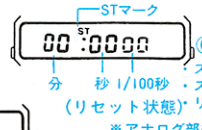
**確認** ⇨ **ST**マークの点灯

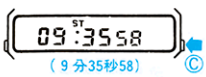



ストップウオッチは1/100秒の計測単位で59分59秒99まで計測でき(60分計)、以後自動的に０に戻って計測し続けます。

★計測のしかた……©ボタンを押すごとに操作確認音が鳴ります。

〈スタート〉 ©ボタンを押す
↓
〈ストップ〉 ©ボタンを押す
(約2秒間押し続けるとリセット(表示0)されます。)




（９分35秒58）

※アナログ部省略

※ロスタイムのある場合にはストップ後、再スタート(©ボタンを押す)すれば表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●鳴っている電子ブザーを止めるにはⒶボタンまたは©ボタンを押します。
●**自動復帰機能**
デジタル時刻のセットやカレンダー、アラーム、デュアルタイムのセットで表示を点滅させたままにしておくと、１～２分後自動的にデジタル時刻表示に戻ります。またアラーム表示のままにしておいても１～２分後自動的にデジタル時刻表示に戻ります。
●**他表示への切替え**
ストップウオッチを使用中にⒶボタンを押して他の表示に切替えてもその計測には一切影響ありません。
●**オートカレンダー**
カレンダーは大の月、小の月を自動判別するオートカレンダーですので、うるう年の２月29日以外は修正不要です。
●**モニターアラーム** アラーム表示のときⒶボタンを押し続けると電子ブザーが鳴ります。